

セイヨウオオマルハナバチの取扱いについて（案）

セイヨウオオマルハナバチ小グループ

本小グループでは、セイヨウオオマルハナバチに係る定着実績、在来マルハナバチへの影響、在来植物への影響、現場での利用実態と逸出防止措置の実施状況・効果等について4回の会合を重ねて議論を行ってきた。以下、小グループとしての検討結果を報告する。

セイヨウオオマルハナバチが生態系等へ与える影響については、次のとおり捉えることが適当である。

- ✓ 定着の可能性については、北海道で自然巣が発見され周年の活動が確認されていること、また、毎年、継続的に大量な利用がなされていることから例え定着が確認されなくとも大量に野外に逸出すれば定着しているのと同様の影響を与えうることから、その可能性は高いものと推測できる。
- ✓ 在来マルハナバチへの影響のうち、営巣場所をめぐる競争については、実験室内で在来種の巣の乗っ取りが確認されておりその可能性があるが、野外での実態は不明確である。

餌資源を巡る競合については、活動地域の餌資源量も含めた競合の状況が不明確である。これら競合に関連して、在来種の分布の変化状況等についても不明確である。

生殖攪乱については、在来種と共通の誘引・忌避物質を含み、実験室では在来種との交尾が確認されておりその可能性があるが、野外での交尾の実態は不明確である。

寄生生物については、検出されているものがあるが、在来種へ影響を与えるかどうか不明確である。

- ✓ 在来植物への影響については、盗蜜行動は確認されているが、結実率に影響を与えているかどうか不明確である。

現場での利用状況及び逸出防止措置の実施状況とその効果については、次のような状況である。

- ✓ 全国で年間約7万コロニーが流通されている。セイヨウオオマルハナバチの利用により、減農薬、省力化、高品質・高付加価値化等、生産面での効果が発揮されている。
- ✓ 野外へのハチの逸出を防ぐためのネット展張及び使用済み巣箱の回収処理については、その普及推進が図られているものの、全国的には普及率はまだ高くない状況にある。
- ✓ ネット展張及び使用済み巣箱の回収による逸出防止効果については、北海道に

- おける調査では効果的との結果が出ているが、経年的な調査は行われていない。
- ✓ ネット展張による温室内環境の管理やコストアップに対応した技術開発・支援策が重要との指摘がある。

セイヨウオオマルハナバチについては、生態系等へ被害を及ぼしているとの確たる知見は得られていないものの、実験結果等を踏まえれば、被害を及ぼすおそれについて、その可能性を否定することはできない。毎年、継続的に大量のコロニーが利用されていることを考えると、そのまま野外への逸出が続けば生態系等へ被害を及ぼすおそれが高まることから、逸出防止上の高い効果が期待できるネット展張及び使用済み巣箱の回収を確実に実施することが極めて重要である。

被害の実態について確たる知見が得られてなく、またネット展張等の実施率がまだ高くない状況においては、コストアップ等の要因ともなるネット展張等を義務づけることには理解を得られないおそれも高い。一方、個々の農家にネット展張等を促すことに関し、法的担保をもって義務づけることによる効果を十分に認識することが必要である。

以上を鑑み、当小グループとしては、セイヨウオオマルハナバチの取扱いについて、以下のとおりとすることを提案する。

- ✓ 国、農協、メーカー等において、逸出防止措置としてのネット展張及び使用済み巣箱の回収を強力に普及推進する。
- ✓ 逸出防止措置の必要性を農家に普及啓発するためにも、生態系等の被害に係る知見の更なる充実を図る。このため、野外のセイヨウオオマルハナバチ等の状況に関する調査を重点的に実施する。
- ✓ 調査の実施状況及び農家への普及啓発状況を踏まえ、1年程度を目途に、特定外来生物への指定について検討する。